

◆交流会概要レポート

# 日・中・韓から代表企業が集結， 熱気あふれる物流交流が実現

～日中国交正常化30周年記念事業の意義を込めて～

## 国交回復30年を記念し第2回交流会

第2回 日中韓物流技術交流会は去る9月4日～6日の3日間、中国の青島市・黄海飯店で開かれた。

中国物流と購買連合会、(株)流通研究社、物流技術と応用雑誌社の主催によるもので、今年は日中国交正常化30周年の記念事業として、1月には無錫市で、今回は青島市で、合わせて2回の交流会が行なわれた。

中国の経済発展を背景に物流事業が急ピッチに伸展しており、本格的な物流交流の必要性を感じた主催側の提案で、昨年の夏から交流会の

計画がすすめられてきたものである。

同交流会には、毎回多数の中国側参加者が参集、日本からは(株)流通研究社の主催でチームを編成し派遣（第2回は29人）、韓国からは(社)韓国物流協会の主催の下で、実務者を中心に交流団が編成・派遣された。日本からの参加メンバーは、**図表-1**の通りである。

これらは単なる交流会ではなく、日本と中国の物流事情をお互いに確認し、共に実務レベルの実績事例レポートを発表し、情報交換を進める狙いで企画がすすめられてきたのが、大きな



写真 - 1, 2

上 交流会の開会式前、控え室にて宗和青島市副市長と交流団が約30分間懇談（右が宗和副市長、左が呉清一副会長）

左 交流会の開会式；壇上右から7番目が青島市・宗和副市長、その右が呉清一副会長、同左が漆崎交流団団長

図表 - 1 第2回日中物流技術交流団（青島）・日本側参加メンバーリスト（現地参加含む・順序不同）

	氏名	社名	役職
1	団長	漆崎榮二郎	(株)ダイフク 常務取締役
2	副団長	大庫 良一	オークラ輸送機(株) 代表取締役社長
3	副団長	岡田 五郎	サンドビックソーティングシステム(株) 代表取締役社長
4		白井 尚隆	(株)ダイフク FA&DA事業部 エンジニアリング本部長
5		河田 賢一	サンドビックソーティングシステム(株) 営業部 国際営業担当部長
6		栗野 頼明	オークラ輸送機(株) 営業本部技術担当 理事部長
7		河野 伸明	富士通(株)SCMソリューション事業部 ロジスティクスソリューション部プロジェクト課長
8		伊地知真弘	日本パレットレンタル(株) 国際事業室室長
9		葉山 弘	日本パレットレンタル(株) 海外事業室主任
10		野中 昭男	小松リフト 海外事業本部 システム営業グループ 主査
11		西村 斐夫	フローテック(株) 代表取締役 社長
12		藤本 繁行	(株)協和製作所 常務取締役
13		森 久雄	(株)協和製作所 海外部兼営業部長
14		津川 紘司	セントラルコンベヤー(株) 取締役（営業担当）
15		武 静	(株)ダイフク FA&DA事業部 海外部
16		井早 洋	富士通(株) 産業営業本部営業推進部
17		三代川広義	北京富士通系統工程有限公司 担当部長
18		張 志強	北京富士通系統工程有限公司 中国市場部 部長
19		横山 靖	富士通（上海）有限公司 営業部 副部長
20		宮下 康治	広州忠達物流有限公司 副総経理
21		蔡 熙	サンドビックソーティングシステム(株) 国際営業部 海外担当主任
22		Mr. Anthony Leong	Komatsu Forklift Asia Pte., Ltd.( Singapore ) Deputy General Manager
23		Mr. Ting Poh Young	Komatsu Forklift Asia Pte., Ltd.( Singapore ) Senior Engineer
24		葉 昌光	Vita-Wheel Holdings Ltd.( 偉輪鏟車集團有限公司 ) Vita 青島子会社社長
25		譚 熾權	Vita-Wheel Holdings Ltd.( 偉輪鏟車集團有限公司 ) 華北区総経理
26		荒木 専三	オークラ輸送機(株) 営業本部海外営業課課長
27	事務局総括	間野 勉	(株)流通研究社 代表取締役社長
28	事務局長	謝 建国	(株)流通研究社 海外事業部
29	事務局	間野 隆	(株)流通研究社 営業部（中国担当）

特長だと言える。

特に中国側のニーズにもとづいて、第1回は自動倉庫、第2回は自動仕分け、ピッキングの分野と、中心テーマを絞って発表が行われた。

今回は、第1日目（9月4日）朝9時に開会式が開かれ（写真 - 1 , 2 ）、初めに主宰者側を

代表して中国物流と購買連合会・副会長、呉清一先生のあいさつがあり、青島で第2回交流会が開催できた喜びを語ると共に、開催宣言が発表せられた。

次に主賓である青島市の宗和副市長からも、今回の交流会の開催へのお祝いの言葉が述べら



写真 - 3  
交流会 2 日目の発表会；参加者は計約160名，中国の全土から集まる

れ，同氏は3国の物流交流進展に大きな期待を表明した。

続いて，日本側を代表して㈱ダイフク常務取締役・漆崎栄二郎氏（交流団団長），韓国を代表して(社)韓国物流協会会長・徐炳倫氏（韓国パレットプール㈱社長）のあいさつがあり，青島市招商促進局長・仲巍氏，(株)流通研究社社長・間野 勉，そして韓国パレット協会常務理事・朴殷圭氏等もそれぞれあいさつを述べた。

同交流会では，2日間にわたり中国から10題，日本から6題，韓国から4題と，合計20題にのぼる発表・情報交流が活発に行なわれた（**図表 - 2**，**写真 - 3**，**4**）。



写真 - 4 発表会の様子；オークラ輸送機(株)栗野部長のスピーチ（通訳は謝建国）

図表 - 2 日本からの交流会発表テーマと発表者（9月5日・第2日目）

	テ マ	会社名	役 職	氏 名
午 前	「一貫パレチゼーションについて考える 効率的な物流システムの構築に向けて」	アジアパレット協 議会	事務局長	伊地知真弘 （通訳：葉山 弘）
	「自動倉庫&ピッキングシステム事例」	㈱ダイフク	FA & DA事業部 エンジニアリング本部長	白井尚隆 （通訳：武 静）
	アジアにおける小松リフトAS / RSの導入事例	小松リフト(株)	アジアグループ会社部長	アンソニー・リオン （Anthony Leong）
午 前	「高速自動仕分けシステム」	オークラ輸送機(株)	営業本部 技術担当 理事部長	栗野頼明 （通訳：謝建国）
	「21世紀の物流を目指す 自動仕分けシステムの最新事例」	サンドピッキングソ リューション(株)	代表取締役 海外営業担当 主任	岡田五郎 蔡 熙
	「日本ODA（政府開発援助）による中国物流シ ステム実証実験とその考察」	富士通(株)	SCMソリューション事業部 ロジスティクスソリューション部 プロジェクト課長	河野伸明 （通訳：張志強）

図表 - 3 第2回 日中韓物流技術交流会（青島）の日程

主催：(株)流通研究社

日次	月日曜	発着地 / 滞在地名	発着 現地時刻	交通機関名	摘 要
1	2002年 9月3日(火)	成 田 空 港 発 青 島 着	08:15 10:30 12:40	JL-783 専用バス	成田空港にて結団式 空路、青島へ 着後、青島市内観光（小魚山、八大関景区） （青島泊）
2	9月4日(水)	青 島 滞  交流会会場 黄海飯店	終日		中国・物流システム技術交流会参加 開会式および中国側講演 10社 ハイアールの物流システムと技術の応用 中国のピッキングシステムの事例研究 中国における3PL企業の発展と展望 倉庫管理システム(WMS)の事例など 青島市主催のパーティー（代表参加） （青島泊）
3	9月5日(木)	青 島 滞  交流会会場 黄海飯店	終日		中国・物流システム技術交流会参加 日本 6社 および韓国側 4社 講演 ・自動倉庫、ピッキング、ソーター、WMS、自 動認識装置、パレット標準化などの発表 交流会 名刺交換会、全員参加 （青島泊）
4	9月6日(金)	青 島 滞	終日	専用バス	企業視察 ・ハイアール国際物流センター / 青島港 ・利群集団物流センター 解団式 （青島泊）
5	9月7日(土)	青 島 発 成 田 空 港 着	14:00 17:55	専用バス JL-784	出発まで自由行動 空路、帰国の途へ



写真 - 5 漆崎団長、大庫副団長を囲んで交流団参加メンバーの記念撮影（宿泊ホテルのロビーにて）

第3日目は、現場見学会。午前は中国最大の家電品メーカーとして知られる、ハイアール本社と同社の国際物流センター、午後は大手量販小売業者・青島利群集団の流通センターと店舗を訪問。

その途中には、青島港のコンテナバースも見学した。詳しい日程は、図表 - 3 にまとめた通りである。

\*

一方、第2回交流会の中国側参加者を業種別にみると、製造業42%、物流業者23%、小売業19%、物流機器メーカー11%、その他5%、となっていた。製造業と小売業で60%以上を占めていることがわかる。

第2回目の交流会開催地となった青島の経済開発区は、今後の中国市場の縮図と言え、今回の反響からも中国の物流投資意欲はこれからさらに活発化していくものと思われる。

今回の第3回交流会は、そうした中国の中でも物流に積極的に取り組んでいる大連にて、2003年5月に開催する計画で、発表者は明年2月末までに募集する予定である。

（交流団事務局）

MF